

保健科学研究科 保健科学専攻 修士課程

概 要

保健科学研究科修士課程は、本学保健科学部の所属学科（作業療法学科、言語聴覚療法学科、視機能療法学科）を基盤として平成14年4月に開設されました。平成19年4月に臨床工学科が設置されたのに伴い教育内容の拡充を図るとともに、平成21年度より修士課程におけるカリキュラムの全面改訂を行いました。

現在、我が国における高齢化の急速な進展がもたらす社会変化は、保健医療領域においても重要な課題となっており、これらの課題を解決するため様々な対応がとられています。中でも高齢者・障がい者の疾病等の重度化、複雑化の解決のために、より高度な専門性と指導力を備えた人材の育成が急務となっています。

保健科学研究科修士課程では、リサーチマインドを備えた高度な専門現職者の養成を目的として、また社会人に対する生涯教育の一環として広く門戸を開いています。特に保健医療に従事する現職者に対する最新の知識・技術の習得に加えて、検査・治療・援助に関する理論的・実践的視点を踏まえながら体系的に学習するためのカリキュラム構成を図っています。更に、より高度な実践能力を修得させるために、各領域に関する専任教員による充実した教育・研究サポート体制を整えています。

開講科目

[共通必修科目]

保健科学特論 保健医療情報解析学特論

[共通専門選択科目]

発達保健学特論 成人・老人保健学特論 精神保健学特論
形態学特論 生体機能学特論

[分野別専門選択科目]

保健医療技術学特論Ⅰ 保健医療技術学特論演習Ⅰ
保健医療技術学特論Ⅱ 保健医療技術学特論演習Ⅱ
保健医療技術学特論Ⅲ 保健医療技術学特論演習Ⅲ
保健医療技術学特論Ⅳ 保健医療技術学特論演習Ⅳ
保健医療技術学特論Ⅴ 保健医療技術学特論演習Ⅴ

[総合科目]

特別研究

教育課程の編成

保健科学研究科修士課程では、本学において日々集積されている研究データや臨床例の資料等を用い、検査・治療・援助に関する最新の情報を教授することで、より高度な学問体系の構築と技能の修得を行っていきます。教育課程の編成における特徴は、大学院学生が履修しやすいように、共通必修科目、共通専門選択科目、分野別専門選択科目、総合科目の4群構成とし、保健科学の基礎から段階的に専門領域に進むように工夫していることにあります。履修方法としては、まず共通必修科目である保健科学特論及び保健医療情報解析学特論を履修し、保健科学研究に関する方法論についての認識を深めてもらいます。同時に各々の研究内容に応じて、共通専門選択科目である発達障害学特論、成人・老人保健学特論、精神保健学特論、形態学特論、生体機能学特論により学際的な学修を行います。更に分野別専門選択科目では、保健医療技術学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保健医療技術学特論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴに分けられ、リハビリテーション各領域における専門的な知識・技能の修得に努め、学修を深めて行きます。総合科目はいわゆる修士論文に該当するもので、2年間を通してじっくりと臨床実践等での研究課題について総合的視点からの研究を行います。

特に修士論文の作成においては、各々の指導教授により、修士論文のテーマに関する文献の紹介やスクーリング等を利用した対面指導、論文作成の進捗状況に合わせた電子メール等での個別指導を行うことで、個々の関心事項を明確にし、それぞれの能力を引き出し、引き伸ばすための指導・助言を行います。保健科学研究科では、このような教育課程の編成により、自己の専門分野の実践的な理論と高度な技能が体系的に修得できるよう科目構成がなされています。